

# 十七文字の抒情詩

今年の梅雨は大雨の被害を各地にもたらしていますが、  
皆様の所は大丈夫でしょうか？

梅雨明けと共に本格的な夏です。暑さもますます厳しくなるのでしょね。

お身体に気を付けて楽しい夏休みをお過ごしください。

さて、今回はタツノオトシゴさんから投句をいただきました。

そして常連のうさおさん、健さんも良い句をありがとうございました。

## タツノオトシゴさん作

### 風通し広島の空澄みわたり

広島はあと少しで61年目の8月6日を迎えます。  
平和公園に立つと広島の空の青さをことさらに感じます。  
それを良く詠んでいらっしゃると思います。  
広島だけでは季語にならないので季語を入れて、  
なお句の流れをスムーズにされるとより良くなるのでは…

\* 広島 of 青空 拵 風 薫る

\* 風も 澄み 空も 澄みを り 広島 忌

### 紫陽花の色鮮やかな雨上がり

良いですね。単調ではないですよ、見たままを写生する所から俳句は  
生まれますから・・

雨上がりの紫陽花の鮮やかさを素直に捉えていらっしゃると思います。

### 紫陽花の色鮮やかに雨上がり

### お雛子に踊る水面や屋形船

この句もお祭りの雰囲気伝わる良い句だと思います。季語を入れるなら

\* お雛子に 踊る 水面や 祭船

さらにこんな風にも \* 屋形船も 水面も 揺れる 祭かな

## うさおさん作

### 夏の朝 蔦覆い露滴りて

情景はとても良く浮かびます。

ただ俳句はすべてを語ってしまうとかえって想像する楽しさがなくなって  
しまうのです。\* 蔓 覆ふ 雫 したたり 夏の朝 (露、蔦が秋の季語なので・・)

### 焼け付きてさらりと風の心地よさ

焼け付くっていうのを季語の炎天に変えれば、もっと臨場感がでますよ。

\* 炎天を 来て 心地 良き 風 さらり

### 汗落ちて下界は如何よ 蟻の群れ

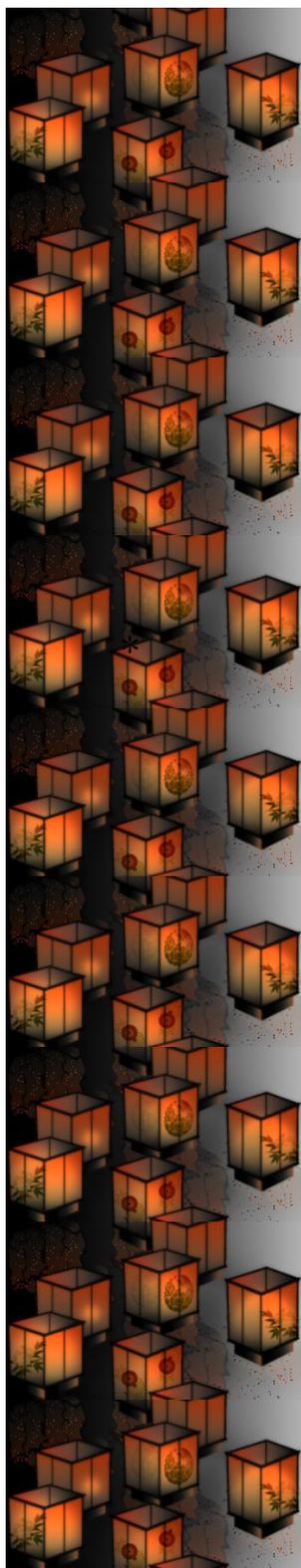
面白い句になっていますね~ 蟻が季語ですし、汗落ちては必要ないかも。

\* 覗き 見る 下界は 如何 蟻の 群れ

さらに少し違った句意になりますが \* 下界には 下界の 秩序 蟻 群れる

### ひとつ風呂ほほ灼く 痛み 炎暑かな

これも良く解りますね。



ただ三つに切れているので読んだ時プツンプツンとした感じになってしまいます。

\*ひとつ風呂日焼けの後の痛みかな

本年もセイゴの泳ぎし夏が来て

今年もまたセイゴの泳ぐ夏だな～感慨が伝わる句です。

ただ泳ぎし・・・と“し”を使うと過去の出来事になってしまうのです。

\*本年もセイゴの川に夏来る

さらにこんな感じにも… \*川幅を自在にセイゴ夏来る

この暑さ犬は石床埒にし

確かにこの暑さは犬達にも酷ですね。家のフレブルの「空」も去年熱中症で突然死んでしまい、本当に悲しい思いをしました。ライちゃんも気を付けて下さいね。

この暑さを先にも使った炎天にかえるとより強くなります。

\*炎天や犬は石床埒とす

### 健さん作

理科室の人体模型西日差す

西日という季語と理科室が絶妙な兼ね合いで、しかも人体模型を持ってきた所はさすがですね。季語を説明せず、付かず離れず…の俳句の基本がしっかり出来ているとても良い句だと思います。

もの言はぬ柳に雨や河童の忌

柳が春の季語なので季重なりですがこの場合は主になるのが「河童忌」なのでこのままだとも良いのかな…季重なりを気にするなら

\*細枝に強き雨脚河童の忌

\*雨しとど黙つらぬいて河童の忌

水落ちる水面に集ふ金魚かな

蹲の金魚が浮かびます。

水落ちる水面に…と重なって、これが良い味にはなっていますが

いっそつくばひを使ってはどうでしょうか。ちょっと面白味にかけるかな～

\*つくばひの水面に集う金魚かな

いかがでしょうか？原句から推敲を重ねると思わぬ味の俳句に出会います。

夏の季語には魅力的なものが沢山あります。花なら夾竹桃 動物なら金魚、熱帯魚…そして堂  
広島にまつわる句を好きな季語できらりと、しかも写生句を主として作る

これが私の夏休みの課題です。

地へ地へと夾竹桃の枝傾ぐ

羅（うすもの）やゆるゆる逢ひに行くつもり

ひらがなのひろしまが好きひろしま忌

ゆうこ

